

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月19日

北海道運輸局

協議会名:北海道十勝地域公共交通計画推進協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果
十勝バス(株)	芽室線など全7系統	運賃改定の実施により天災時運休による減収を最小限にとどめられ、また、ダイヤ改正による重複路線の効率化で既存路線の利用拡大と収支改善を図った。	A 計画のとおり事業は適切に実施された。	B 公共交通の利用者数は目標「1,725千人以上」に対し、2月の大雪による運休で利用者が想定より減少したため「1,579千人」であったが、前年度からは横ばいであった。 C 人件費の増加や物価高騰の影響により経費が増大したことから、公的資金が投入されている公共交通の収支率は目標「41.9%以上」に対し「35.7%」となった。	人口減少時代を見越したデータ活用・分析による持続可能な路線再編について沿線自治体と協議を進めていき、運行の効率化を図る。 また、令和7年12月から一部路線について運賃改定を実施し、収支の改善を図る。	・計画どおり事業は適切に実施されている。 ・一部の目標を達成することができなかったが、引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。
北海道拓殖バス(株)	緑駒線など全8系統	運賃箱より取得できる乗降データを基に利用実態を分析し、今後の路線維持へ向けた運行内容の協議を沿線自治体と進めた。	A 計画のとおり事業は適切に実施された。	C 人件費の増加や物価高騰の影響により欠損額が増大したことから、公的資金投入額は目標「700,486千円以下」に対し「815,570千円」であった。	沿線利用者のニーズを反映させつつ、利用しやすく安心できる生活交通とするため、必要に応じて関係自治体と協働し、運行の効率化を図る。(令和7年10月、然別湖線鹿追線、新帯線の路線再編) また、令和7年12月から運賃改定を実施し、収支の改善を図る。	・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。